

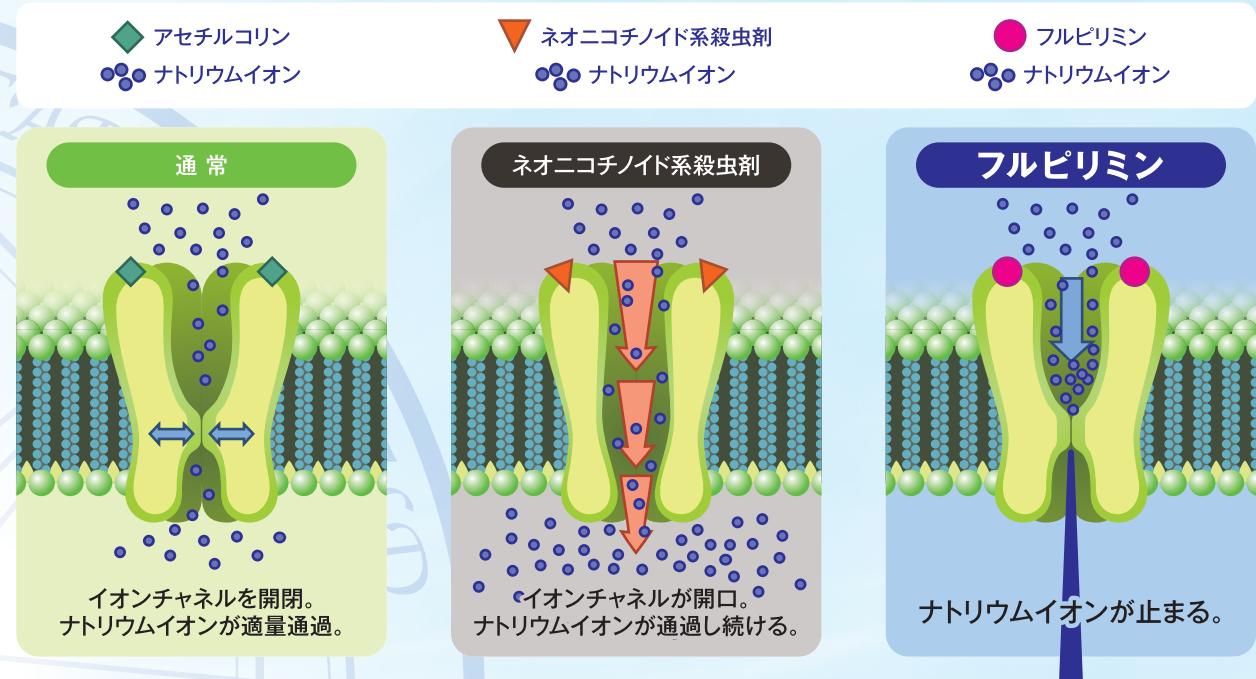
水稲用殺虫剤

リディア NT 箱粒剤



作用メカニズム

フルピリミンは、ニコチン性アセチルコリン受容体に結合し、アンタゴニスト(遮断薬)として作用。イオンチャンネルを閉口させイオンの流入を遮断することで、脱感作状態を引き起こし、やがて死に至らしめます。ニコチン性アセチルコリン受容体に作用するネオニコチノイドなどの殺虫剤はアゴニスト(作動薬)として作用し、イオンチャンネルを開口させることで、昆虫の異常興奮を引き起こすため、フルピリミンとは作用機構が異なります。



リディア NT の作用点
フルピリミンがイオンチャンネルを閉口。イオンの流入を遮断することでナトリウムイオンの流れが止まり、脱感作状態を引き起こし、やがて死に至らしめます。(IRACコード4F)

フルピリミンの殺虫スペクトラム

初期害虫であるイネミズゾウムシ、イネドロオウムシをはじめウンカ類、ツマグロヨコバイに高い効果を示し、一部のチョウ目害虫に対しても有効です。既存の殺虫剤と作用メカニズムが異なるため、交差抵抗性を示しません。

対象害虫	活性	対象害虫	活性
コウチュウ目	○	チョウ目	○
イネドロオウムシ	○	ニカメイチュウ	○
イネミズゾウムシ	○	フタオビコヤガ	○
ウンカ類・ヨコバイ	○	コハネイナゴ	○
ヒメビウンカ	○	イネヒメハモグリバエ	○
セジロウンカ	○	イネカラバエ	○
トビイロウンカ	○		
ツマグロヨコバイ	○		

○: 活性あり □: はリディアNT箱粒剤で登録あり(2021年5月末日現在)

殺虫過程

害虫が稲の摂食を通じて、フルピリミンを吸収し、神経伝達異常を起こして、麻痺状態になります。やがて水面へ落下し、溺死・餓死または天敵による捕食へと至ります。



成分・性状・構造式

一般名	フルピリミン(flupyrimin)	構造式
含有量	2.0%	
化学名	N-[(E)-1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)ピリジン-2(1H)-イリデン]-2,2,2-トリフルオロアセトアミド	
		分子量: 315.68

安全性(原体)

急性経口毒性(ラット)	300<LD50≤2000mg/kg	急性経口毒性(ウズラ)	1163mg/kg(LD50)
急性経皮毒性(ラット)	>2000mg/kg(LD50)	魚類急性毒性(コイ)	>100mg/l(LC50)

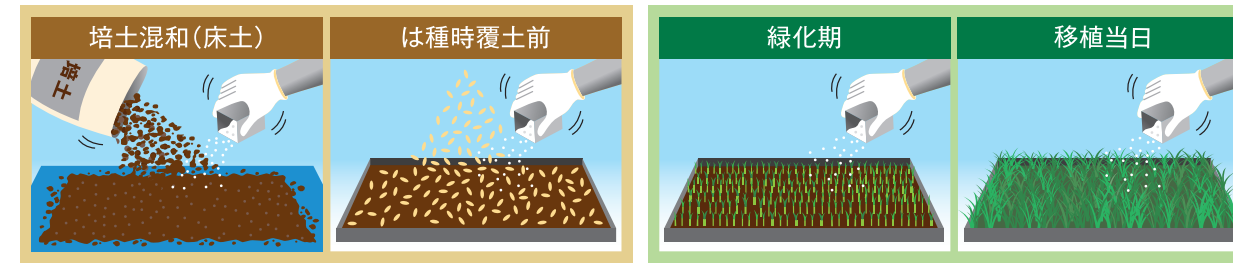
適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネドロオウムシ イネミズゾウムシ	育苗箱 (30×60×3cm.) 使用土壌約5ℓ 1箱当り50g	は種前	1回	育苗箱の床土に均一に混和する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	は種時覆土前 ~移植当日					
ニカメイチュウ	移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。				

使用上の注意事項

- ▲効果・被害等の注意**
- 本剤を育苗床土に混和する場合には被害を生じる場合があるので、下記の注意事項を遵守してください。
 - ①山土、畑土などを使用する場合は、十分に乾燥させてから使用してください。
 - ②粒剤を混和した床土は高温多湿での保管を避け、すみやかに使用してください。
 - ③粒剤が破碎されるような過度な混和は避けてください。
 - 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ってください。
 - ①育苗箱の苗の上から所定量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とすのち、十分灌水してください。
 - ②軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは被害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用してください。
 - 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は被害が生じやすいので、代かきはいねいに行い、移植後田面が露出したりしないよう水管理に注意してください。
 - 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意してください。
 - 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用を避けてください。
 - 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用を避けてください。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化、褐点を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持してください。**
- 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。**
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。**
- ▲安全使用上の注意**
- 飲食などのないよう注意してください。
 - 誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の担当を受けさせてください。
 - 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の担当を受けてください。
 - 使用の際は農業用マスク、手袋、長スボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
 - 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

処理時期と使い方(イメージ)



- 育苗箱 1箱当りの床土に50gを均一に混和してください。
- 育苗箱 1箱当り50gを均一に散布してください。

●使用前にラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空袋・空容器は圃場や用水路などに放置せず、適切に処理してください。●防除日誌をつけましょう。

お問い合わせ/ご注文は

は種前(床土混和)・ は種時から移植時まで 使用可能!!

処理時期が幅広く、
ご都合の良いタイミングで
散布ができます。

初期害虫、ウンカ類、 ニカメイチュウなどに 高い効果を発揮!!

新規有効成分で、
既存剤に抵抗性を持った害虫にも
効果を発揮します。

ミツバチを始めとする 有用昆虫、天敵類に 影響が小さい!!

ミツバチのほか、
ウツキコモリゴモ、ヤゴ等への影響は
ほとんどありません。

ミツバチ、その他の有用昆虫への影響

フルピリミンは、セイヨウミツバチのほかマルハナバチやマメコバチなどのハチ類に対して、影響がほとんどありません。田んぼの近くでハチが放飼されているような環境でも、安心して使用いただけます。またクモ、ヤゴなど多くの有用昆虫、天敵類に対して、影響がほとんどないことが確認されています。

虫種	試験方法	結果
セイヨウミツバチ	成虫/急性/経口	96hr >53.6µg/bee (LD50)
	成虫/急性/局所	96hr >100µg/bee (LD50)
	成虫/散布/リンゴ	100ppmで影響なし
	幼虫/急性/局所	72hr >20µg/µl (LD50)
マルハナバチ	成虫/急性/経口	72hr >100µg/bee (LD50)
マメコバチ	成虫/散布/イチゴ花、葉	100ppmで影響なし



ミツバチ

供試昆虫名	生育ステージ	影響の大きさ(○は影響なしを示す)	試験方法	結果
ウツキコモリゴモ	幼体	○	虫体浸漬	>100mg/ℓ (LD50)
アキアカネ	孵化幼虫(ヤゴ)	○	田面水浸漬	箱あたり50g (20枚/10a)で影響なし
クモンクサカゲロウ	幼虫	○	虫体浸漬	>100mg/ℓ (LC50)
クメリスカブリダニ	成体	○	食葉浸漬	>100mg/ℓ (LD50)
ショクガタマバエ	成虫	○	ドライフィルム	10>LD50>1mg/mℓ
タイリクヒメハナカメムシ	成虫	○	虫体浸漬	100>LC50>10mg/mℓ
ナミテントウ	成虫	○	虫体浸漬	10>LD50>1mg/mℓ



ウツキコモリゴモ

アキアカネ

クモンクサカゲロウ

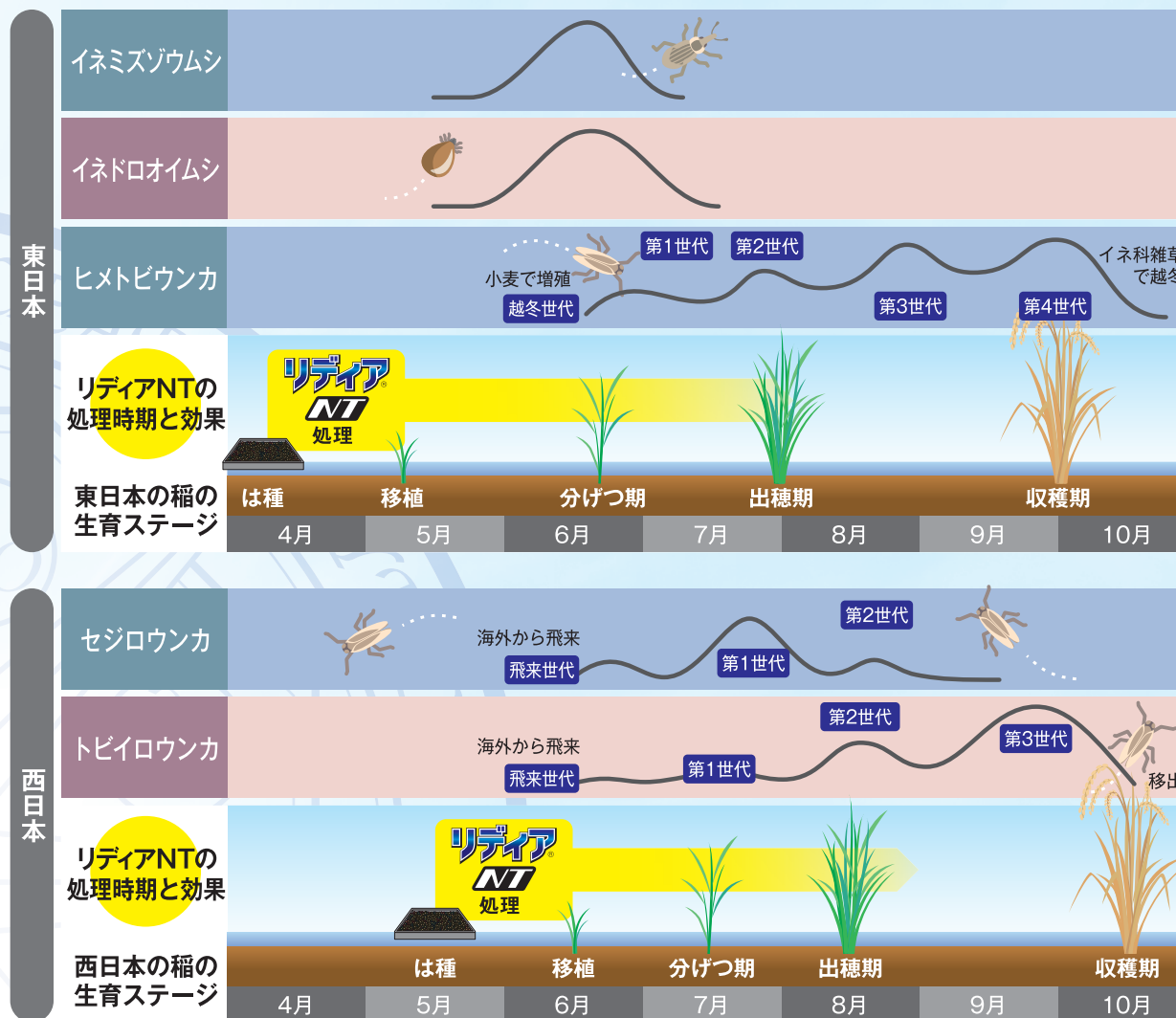
クメリスカブリダニ
アリス ライフサイエンス株式会社

ショクガタマバエ

タイリクヒメハナカメムシ
©全国農村教育協会

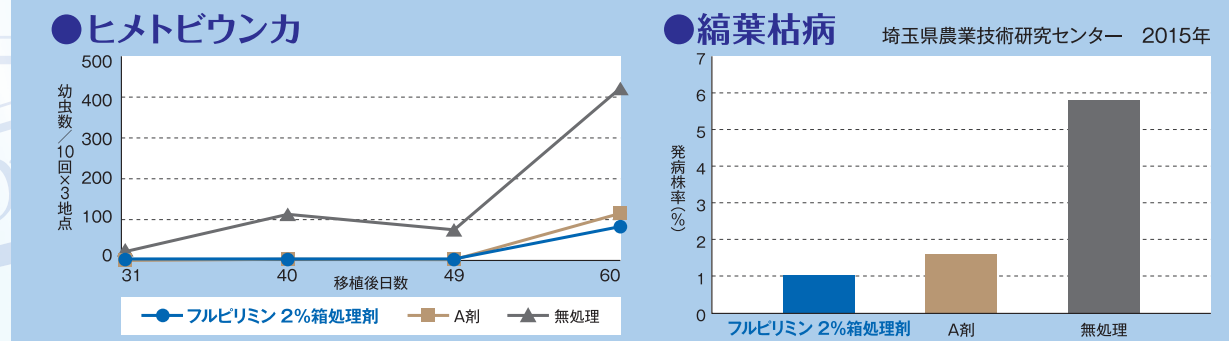
ナミテントウ

害虫発生パターンと処理イメージ



ウイルス媒介ウンカと縞葉枯病に対する効果

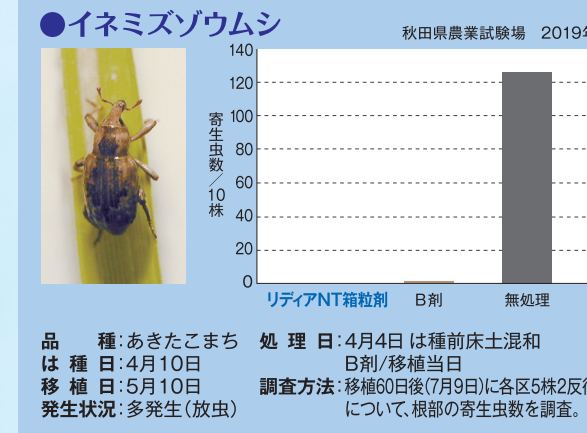
水稻の重大病害である縞葉枯病は、ヒメトビウンカによってウイルスが媒介されます。リディアNT箱粒剤は、ウンカ類に対する効果が高く、水稻がウイルスに感染する前にウンカを死亡させるので、縞葉枯病の蔓延防止にも効果を発揮します。



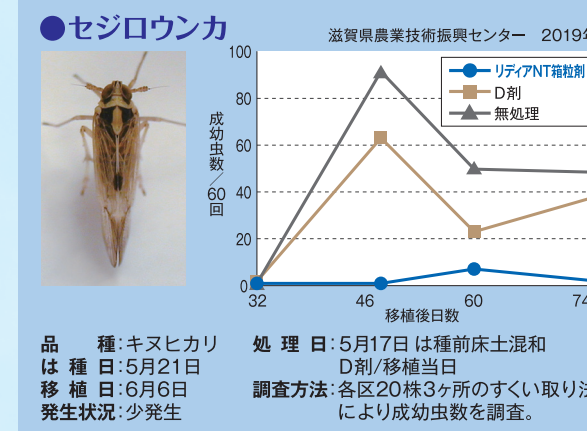
品 種: キヌヒカリ 発生状況: 中発生 調査方法: 各区で10回振り×3地点のすくい取り法により幼虫数を調査。また移植は種日: 6月5日 処理日: 6月26日(移植当日) 71日後には各区100株×5列について、株毎に抽出中の葉の黄化や移出 日: 6月26日 処理量: 50g/箱 出すくみなドイネ縞葉枯病の病徴を調査し、発病株率を算出。

**フルピリミンはヒメトビウンカへの効果が高く、
また速効的に効果を発揮することから縞葉枯病抑制効果が期待できます。**

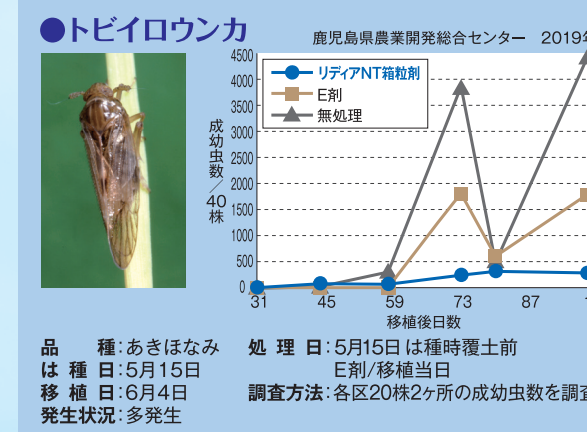
委託試験事例



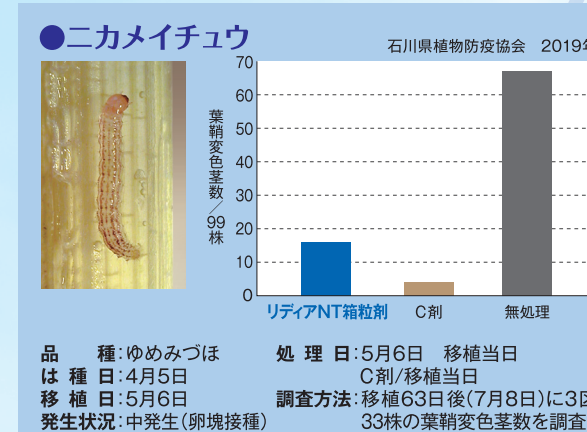
品 種: あきたこまち 処理日: 4月4日は種前床土混和 B剤/移植当日
は種日: 4月10日 調査方法: 移植60日後(7月9日)に各区5株2反復
移植日: 5月10日 について、根部の寄生虫数を調査。
発生状況: 多発生(放虫)



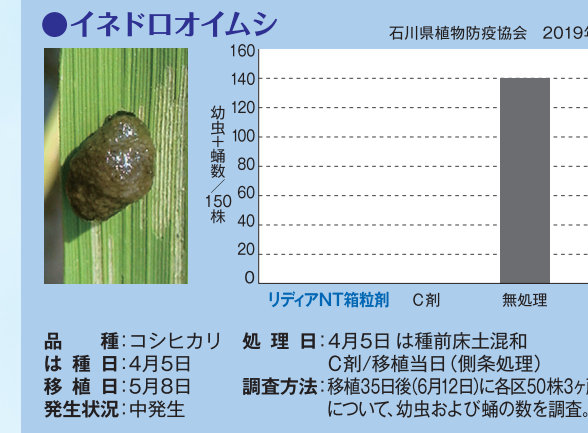
品 種: キヌヒカリ 処理日: 5月17日は種前床土混和 D剤/移植当日
は種日: 5月21日 調査方法: 各区20株3ヶ所のすくい取り法
移植日: 6月6日 により成幼虫数を調査。
発生状況: 少発生



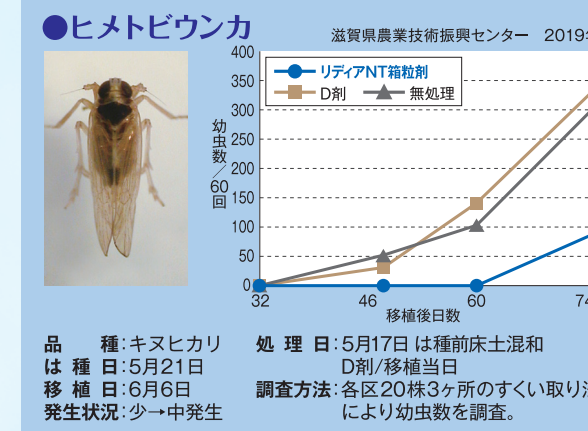
品 種: あきほなみ 処理日: 5月15日は種時覆土前 E剤/移植当日
は種日: 5月15日 調査方法: 各区20株2ヶ所の成幼虫数を調査。
移植日: 6月4日 発生状況: 多発生



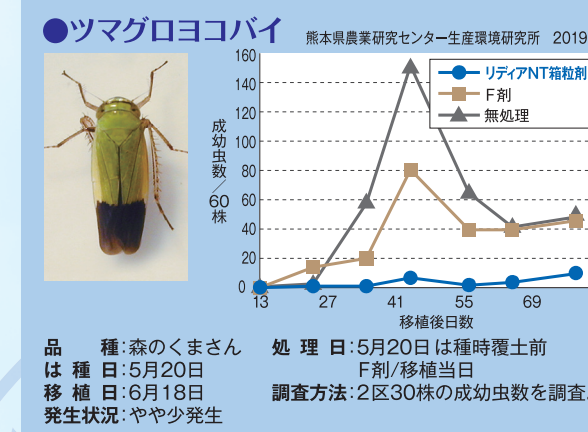
品 種: ゆめみづほ 処理日: 5月6日 移植当日
は種日: 4月5日 C剤/移植当日
移植日: 5月6日 調査方法: 移植63日後(7月8日)に3区
発生状況: 中発生(卵塊接種) 33株の葉鞘変色茎数を調査。



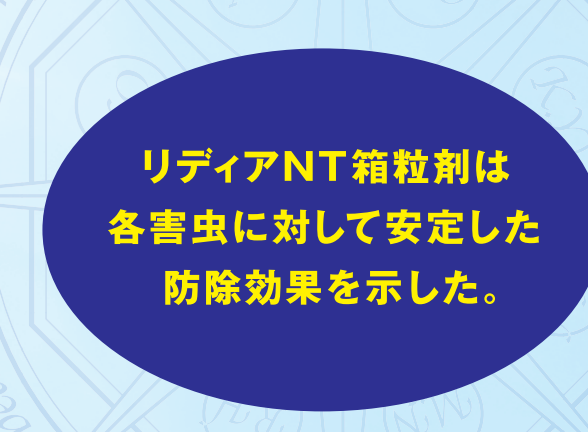
品 種: コシヒカリ 処理日: 4月5日は種前床土混和 C剤/移植当日(側条処理)
は種日: 4月5日 調査方法: 移植35日後(6月12日)に各区50株3ヶ所
移植日: 5月8日 について、幼虫および蛹の数を調査。
発生状況: 中発生



品 種: キヌヒカリ 処理日: 5月17日は種前床土混和 D剤/移植当日
は種日: 5月21日 調査方法: 各区20株3ヶ所のすくい取り法
移植日: 6月6日 により幼虫数を調査。
発生状況: 少→中発生



品 種: 森のくまさん 処理日: 5月20日は種時覆土前 F剤/移植当日
は種日: 5月20日 調査方法: 2区30株の成幼虫数を調査。
移植日: 6月18日 発生状況: やや少発生



品 種: ゆめみづほ 処理日: 5月6日 移植当日
は種日: 4月5日 C剤/移植当日
移植日: 5月6日 調査方法: 移植63日後(7月8日)に3区
発生状況: 中発生(卵塊接種) 33株の葉鞘変色茎数を調査。

**リディアNT箱粒剤は
各害虫に対して安定した
防除効果を示した。**